

TAKE FREE

介護を応援する情報誌〔カイゴタイムズ〕

介護 Times

【全国版】

4

Apr.2021

介護のこと新発見。
地域密着、
この街と共に。



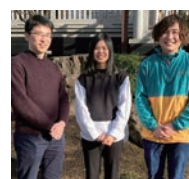
- 02 **いのち**『医療法人忠恕 春日部在宅診療所ウエルネス』理事長・院長 笹岡 大史 先生
よい「看取り」をできる人が、一人でも増えたらー。



- 05 **「ミライ道場」奨学生座談会**

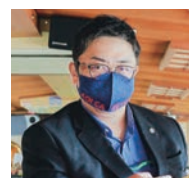
夢 根本 紘志 さん 仲宗根 花 さん 大野 高義 さん

「自分がやりたいこと」の視点で関われば、介護はつらくない。
自分の成長につながる！



- 08 **想い**『横浜市多業種交流会 浜CHAN（はまちゃん）』発足人 志摩 宙人 さん

誰一人取り残されない世の中を～
横浜市多業種交流会「浜CHAN」



- 10 **旅行**『東京トラベルパートナーズ株式会社』代表取締役 栗原 茂行 さん

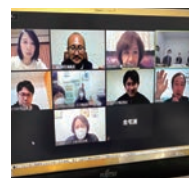
臨場感あふれるオンラインツアーで
施設にいながら、旅気分を味わう！



- 12 **介護×不動産 座談会 vol.3** 介護業界×不動産業界 計15名による座談会

— 豊島区から考える —

どうする？ 超高齢化社会における「命の管理」



- 16 **音楽**『株式会社 Wellone's 取締役』『Leaf音楽療法センター センター長』武知 治樹 さん

もっと身近に音楽療法を！



- 19 次号予告

- 20 広告掲載申込書

- 21 編集メンバー紹介

介護 Times [全国版]

TOWN
介護 TOKYO

ネットでも読めます！
最新号、バックナンバー



『介護の資格最短net』で読むことができます。

介護の資格 最短net



<https://www.acpa-main.org/kaigotimes.html>



よい「看取り」をできる人が、

一人でも増えたら――。

『医療法人忠恕 春日部在宅診療所ウエルネス』 理事長・院長 笹岡大史 先生

本誌「4月号」
表紙モデル



笹岡先生

笹岡先生

通院が難しくなってきた方のご自宅や高齢者住宅などへ診療に向う「在宅医療」を行う、医療法人忠恕 春日部在宅診療所ウエルネス（埼玉県春日部市）。同診療所を開業し院長を務めるのは、本号の表紙を飾る笹岡大史先生（57歳）だ。この超高齢化社会の中、看取りや緩和ケアといった分野が抱える課題はまだまだ多い。今回は「一人の医者として、一人の人間として」医療と介護に向き合う笹岡先生にお話を伺った。

医者への道を目指して

産婦人科の医者である父親の姿を見て育ち、自然に医者を目指すようになったという笹岡先生。こう聞くと、医者の家庭に育ち医者を目指した――と約束された目標を掲げたように感じるが、実は、笹岡先生のご実家は陶器屋を営まれてい

たという。三重県四日市の伝統的な焼き物「萬古焼」を取り扱い、東南アジアへの輸出なども行っていたそう。そして医者であるお父様は、養子として迎え入れられたとのこと。

陶器屋という中小企業で育つ中、医者である父親、また、お店や工場で働く従業員など様々な人たちに囲まれて幼少期を過ごす。

その後は明徳義塾中学・高等学校に進学し、全国から集まる仲間と共に寮生活を送った。医者になるという意志は変わることなく、北里大学の医学部へ進学。勉強とともに、アメリカンフットボールにも励み、文武両道を貫いた。

「よく、お医者さんらしくないね」と患者さんからいわれるんです。私にとつて、これは最高の誉め言葉なんです」と話す笹岡先生。幼少期から学生時代に

わたり、多様な人たちに囲まれてきたという背景がそこにあるように窺える。



学生時代の笹岡先生
(背番号70番)



開業までの紆余曲折

大学卒業後は、心臓カテーテル治療など専門性の高い技術が必要な治療に携わったり、大学病院の循環器内科部長を務めるなど様々な経験を積まれた笹岡先生。また、経営や制度といった分野にも興味を持ち、慶應義塾大学ビジネス・スクール(KBS)にも通ったという。特に関心を持ったのが、大学卒業時には制定されていなかった介護保険制度。「介護や超高齢化に伴う医療が、ますます必要になるのでは?」と感じたそう。

そんな中、とある介護老人保健施設から「介護に興味があるなら、施設長をしてみてはどうか?」と誘いがかかる。

今まで得てきた経営や介護保険の知識が役に立つのでは、との思いで就任を決心したという。

笹岡先生が取り組んだのは、「看取り」までを見据えた運営だった。介護施設の中でできる診断・治療を適切に行うことで、救急車の出動件数を激減することができたそう。 「ベッド数を増やしたりするのではなく、医者として本来やるべきことをやればいい方向に向かうんです」と当時を振り返る。

その後、後任となる施設長が決まり精神科病院の内科医に。認知症専門病棟を担当するが、たまたま紹介された有料老人ホーム1階の空き家がきっかけとなり、現在の診療所の開業に至ったそう。



命の大切さを伝える

診療所のモットーは「命の大切さを伝えること」。生と死に立ち会う機会が少なくなった現代社会に対し「昔はお産婆さんがいて、出産に立ち会うという経験を得られていたんです」と笹岡先生は話す。また、「看取りも一緒です。病院に任せれば安心かもしれませんが、隔離ともいえるんです」と指摘する。

家族と会えない病室で過ごすことにより、寂しさが増し、痛みも感じやすくなるという。「病院に比べ、自宅や施設内で見送った方のほうが、安らかな表情をされていた方が多いように感じます」。

医者というと「命を救う」といったイメージが強いが、笹岡先生によると、その一方で「よい看取り方」も大切な医療の一つだという。「点滴の量の減らし方など色々ありますが、学べる場がないんです。ある程度の状態になったら、症状の緩和を考えないといけない。そのために、ご自宅など安心できる場所に帰すことも必要なんです。在宅医療との連携の経験の少ない医師、看護師や病院がまだまだ多いんです」と現状を語る。

医療と介護の連携

笹岡先生によると、「医療と介護の間でしっかりした連携がないと、いい医療もいいケアもできない」という。「医療と介護は一人の方に対して並列してあるべきもので、両者の連携をしてバランスはとても大切です。肺炎の治療にしても、まずは予防が大事。正しいケアが、されていないと口の中も汚くなり、肺炎を繰り返すことになります。もちろん治療はできますがケアが優先です。無駄な医療を施すのではなく、必要な時の医療なんです。しかも、医療介護の理想的な連携は利用者に対するメリットだけではなく、介護施設の運営にも好影響がありベッド稼働率が100%を継続的に超えている



特別養護老人ホームもあります」。

また、「治療や手術だけが医療ではない」とのこと。「治療や手術をして、元に帰すだけでは駄目なんです。その方の生活環境を整えたり、介護サービスになげたりしないと、同じことの繰り返しになってしまう」。

このように先を見据えた医療を施すためには、相手を知ること、向き合うことが不可欠といえる。「一人の人として向かい合うことが大切なんです。人と人の触れ合いは、医者として忘れてはいけません。患者さんとの信頼関係があつてこそなんです。信頼関係を築くことができなければ、治療への協力も得られない。手術や薬も拒否されてしまう」とその大切さを語る笹岡先生。

このような対人関係を築くにあたり、様々なコミュニケーションに関する手法はあるが、根本として大切なのはそれを用いる「人」ではないだろうか。笹岡先生は道徳観や人間学を重要視し、人間学を学べる月刊誌『致知』を用いたスタッフ研修を定期的に行っている。

「人として、どう生きるべきか？」を考える人間学を始め、医療・介護以外のことも知りフィードバックできるような

取り組みができればという笹岡先生。

「残りの人生、次の世代にもつなげていきたい。若い世代の人たちと一緒に仕事をしたいですね。そして、よい『看取り』ができる人が、一人でも増えたら嬉しいです」。



(左から) 笹岡先生、近藤カメラマン、藤井編集長



ライター 藤川 悠子

医療法人忠恕 春日部在宅診療所 ウエルネス

〒344-0051 埼玉県春日部市内牧3701-1 エミナース春日部1F
☎ 048-792-0772





『医療法人忠恕 春日部在宅診療所 ウエルネス』スタッフの皆さま

個人さま
法人さま

取材先募集中

掲載
無料



目指す介護を発信しませんか?
本誌へ掲載する記事で大募集



介護を応援する情報誌〔カイゴタイムズ・全国版〕

取材・広告に関するお問い合わせはこちら

▶▶▶ 株式会社 是眞 〒115-0041 東京都北区岩淵町32-11 電話03-5939-6682

有料広告募集

伝えたい人に伝える広告

ターゲットに直接届く広告

印刷・掲載のコミコミ価格

広告サイズ多数対応(1/4〜フルページ)

介護Times 広告主募集